

令和 8 年 6 月

美術品梱包輸送技能取得士認定制度 関係各位

美術品梱包輸送技能取得士認定制度

委員長 遠藤 啓

公益財団法人日本博物館協会

専務理事 半田 昌之

## 美術品梱包輸送技能取得士認定制度における 1 級資格について（補足説明とお願い）

公益財団法人日本博物館協会が実施する美術品梱包輸送技能取得士認定制度（以下「認定制度」）は、平成 20 年度から導入の準備を進め、平成 23 年度の 3 級試験の試行実施以来、2 級、1 級の資格認定試験を実施してきました（令和 7 年度末の合格者は、3 級が 594 名、2 級が 305 名、1 級が 41 名）。

1 級資格については、平成 25 年度から認定試験を実施し、筆記試験(90 分)と口頭試問により合否を判定しています。

本補足説明では、1 級資格について、その資格の位置付けを明確にするとともに、これまで実施した試験の概況を共有し、今後の同制度における 1 級資格に求められる能力を再確認し、今後に向けた課題についてご依頼事項を含めて共有させていただき、今後の認定制度の充実を図りたいと思います。

### 1. 1 級資格認定試験に向けた受験者の育成について（現状分析と今後に向けた対応）

過去の試験結果を分析すると、1 級資格認定試験の合格率は年度によるばらつきが大きく、令和 7 年度末時点の合格者は 41 名（年間平均 3.15 名）である。近年は口頭試問の合格率は高い一方、筆記試験で不合格となる受験者が多く、平均点・最高得点ともに低下傾向にある。また、記述内容の重複や、梱包輸送計画書の作成・実施経験の不足がうかがえ、安全な梱包輸送業務に必要な設計・計画能力への理解が十分とは言えない状況が見られる。なお、『博物館資料取扱いガイドブック』第 2 改訂版第 19 章追加の効果は現時点では限定的である。

今後は、1 級資格が梱包輸送計画の設計、関係者との情報共有、作業全体の指揮・監督を担う高度な資格であることを再確認していただき、資格水準を維持する必要がある。

そのため、ガイドブックを活用した筆記試験対策を充実させるとともに、受験者の選定にあたっては受験資格だけでなく、実際の設計・指揮経験を有する人材を選考することが望まれる。

また、認定制度の公平性と運営体制を維持するため、1 社当たりの受験者数の調整について、引き続き各社のご理解とご協力をお願いしたい。なお、認定制度の実施主体としても、関係者のご意見を踏まえながら、資格制度の水準を維持し、その充実・発展に努めていく所存である。

### 2. 制度導入から令和 7 年度までの 1 級資格試験の概況

\*1 級資格については、海外を含む美術品等の輸送梱包作業を伴う展覧会を対象に、展示に供する美術品等の輸送梱包から展覧会場における展示作業、終了後の撤去から返却に至る一連の作業について、「全行程に関する梱包輸送計画を設計し、作業に関わる作業員に対して必要な指導と指示を行うとともに、着実・安全に実施する優れた能力」を有することを資格要件として実施してきた。

- \*1 級資格に求められる能力を審査する認定試験では、2 級資格の能力を有することを前提に実技試験は行わず、海外美術品の輸送を含む展覧会 2 例を問題として設定し、90 分の筆記試験と各人ごとの口頭試問によって受験者の能力を点数化し、1 級資格に対する適否を判断している。
- \*年度によって出題する問題は異なるが、能力を判断するための採点は共通した基準によって行ない、問題の内容による差異が生じないように配慮して運用している（筆記の合格ラインは 60%、口頭試問は 70%以上）。
- \*1 級資格に適う能力と業務的役割について、総括的に概説することを目的に、本認定制度のテキスト的性格を有する『博物館資料取扱いガイドブック』の第 2 改訂版に、第 19 章として「美術品の梱包輸送設計」を追加した（令和 5 年 5 月）。

### 3. 参考資料

\*1 級資格に求められる役割と能力（認定制度に関する認定規程から抜粋）

第 2 条 美術品梱包輸送技能取得士は、1 級、2 級及び 3 級の 3 つの等級に区分する。

2 各級の基準は、美術品の梱包及び輸送に係る知識及び技能に応じて次のとおりとする。

区分	求められる知識及び技能
1 級	① 美術品の梱包及び輸送に関し、作業員に対して必要な指導及び指示ができる。 ② 美術品の梱包及び輸送の設計ができる。
2 級	① 美術品の梱包及び輸送に関し、独立して作業を行うことができる。 ② 美術品の梱包及び輸送に関し、必要な準備ができる。
3 級	① 比較的取扱いの容易な美術品の梱包及び輸送に関し、独立して作業を行うことができる。 ② 比較的取扱いの容易な美術品の梱包及び輸送に関し、必要な準備ができる。

（受験資格）

第 3 条 各級の受験資格は、次のとおりとする。

等級	資格	経験年数	保有資格
1 級		10 年以上	2 級
2 級		5 年以上	3 級
3 級		2 年以上	

註：経験年数は、美術品の運送に限らず、運送業の在籍年数とする。

\*平成 25 年度の第 1 回から令和 7 年度までの 1 級試験の結果概要

回数	年度	受験企業数	受験者数	合格者数	合格率 (%)	口頭試問合格者数	筆記合格者数	筆記最高点 (最低点)	筆記平均点	筆記○口頭試問×	筆記×口頭試問○
1	平成 24 (2012)	2	8	4	50	4	5	66 (26)	56.1	1	0
2	平成 25 (2013)	2	11	3	27.3	5	7	72 (52)	60.6	4	2
3	平成 26 (2014)	3	11	3	27.3	6	5	74 (21)	57	2	3
4	平成 27 (2015)	2	10	5	50	6	5	74 (47)	59.3	0	1
5	平成 28 (2016)	3	10	2	20	3	7	72 (44)	60.4	5	1
6	平成 29 (2017)	4	10	4	40	6	7	76 (44)	62.4	3	2
7	令和元 (2019)	4	10	3	30	7	3	68 (44)	44	0	7
8	令和 2 (2020)	4	10	5	50	6	8	80 (44)	65.8	3	1
9	令和 3 (2021)	4	10	1	10	6	3	69 (46)	53	2	3
10	令和 4 (2022)	4	10	3	33.3	7	3	60 (40)	53.2	0	4
11	令和 5 (2023)	4	10	2	20	9	2	63 (38)	53.2	0	7
12	令和 6 (2024)	4	10	4	40	8	4	69 (45)	58.2	0	4
13	令和 7 (2025)	4	10	2	20	7	2	61 (29)	47.4	0	7

#### \*試験結果の概要を踏まえた考察

- \*年度ごとの合格率は最大 50%、最小 10%。1 ヶ年度平均では 3.15 人。
- \*令和 3 年度までは、筆記試験に合格しても口頭試問で不合格となる者が一定程度いたが、それ以降はいなくなり、口頭試問での合格率は高い水準を維持しつつある。
- \*他方、筆記・口頭試問ともに、1 級資格認定試験の設問の対象業務は、梱包輸送計画書を作成して、社内や作業員はもとより、所蔵先や展示施設の職員（所蔵者・学芸員）とも共有する必要がある規模であるが、そのことの認識を欠く受験者が見受けられる。
- \*口頭試問に合格しても筆記で不合格となる者の割合が高く、筆記試験の平均点が低い傾向が見て取れる。
- \*筆記試験の最高得点は 80 点だが、それ以降平均点の降下とともに最高得点も下降傾向にある。
- \*記述回答に同内容の事項を重複して記載する傾向が見られる。
- \*現場経験 10 年以上、2 級資格を有する者という受験条件だが、受験者自身が実務の場で梱包輸送計画書を作成し、実際に計画を実施した経験が不足していると感じられる傾向が見て取れる。

以上

本件に関する問合せ先：日本博物館協会事務局

担当：佐々木

[Tel:03-5832-9108](tel:03-5832-9108)

e-mail; [webmaster@j-muse.or.jp](mailto:webmaster@j-muse.or.jp)